

バレンタインは 木更津に集まれ

周辺の三井アウトレットパーク木更津やイオンモール木更津に年間計2千万人が訪れるのとは対照的に、閑散としている木更津市中心街。そこに客を呼び込もうと、市や商工会議所などが中心となって、14日のバレンタインデーに一大作戦を展開する。いまだ休日には3割が閉店している市内の小売店の意識改革も促す。

JR木更津駅に6日、「恋人の聖地」中の島大橋カップルチエア」がお目見えした。JR東日本が企画、木更津総合高、木更津高、木更津工業高専も製作に協力した。15日まで改札口の前に設置される。久留里線では15日までの土、日曜日、ハート形のつり手がある車両が走る。

市内では14日に向けて、「恋人の聖地」に選ばれた中の島大橋を舞台回しに、こうした様々なイベントや企画が始ま



JR木更津駅に設けられたカップルチェア。製作に参加した生徒がモデル役に

休日に閉める店刺激も

っている。

この冬から中の島大橋で始めた「木更津恋物語 冬花火」では最終日の14日午後6時から、俳優の加山雄三さんの長男、池端信宏さんプロデュースの音楽花火1375発が打ち上がる。

駅周辺では飲食店27店と屋台村の約30店が、当日券2800円ではしごできる「木更津バル&おっせ木更津! たっぺ村」をおと、15日に開く。

中心街ににぎわいを取り戻すのは市の大きな課題の一つになっている。木更津商工会議所が実施した駅西口の通行量調査によると、イオンモール開店前と

開店後を比較すると、平日で20%、休日で18%も歩行者が増えた。その一方で休日に小売店の3割が休んでいたというアンケート結果がある。

商工会議所では「確実に人の流れが来ている。休日に閉めている店は、そうした実感を得られていないのでは」と分析している。

そこで商工会議所は二つの巨大商業施設を活用した「2000万人のお客様へ 木更津おもてなし宣言」を昨年11月に打ち出し、売り場のPOP（広告カード）の書き方講習会や店に売り物をつくり活性化を図る「1店逸品運動」も始めた。今回の「2・14作戦」はこうした流れの延長線上にある。

商工会議所専務理事の永野昭さんは「木更津には、年間1千万人が訪れる成田山新勝寺が二つあるようなもの。中心街がその『参道』になれば」と話している。（堤恭太）



中の島大橋

木更津港と中の島を結ぶ全長236メートルの歩道橋。かつて運航していたフェリーを通すために歩道橋としては日本一の高さ27メートルを誇る。人気ドラマ

マだった「木更津キャッツアイ」(TBS)の舞台になり、恋人を背負って渡りきると結ばれるという「赤い橋の伝説」が生まれ、カップルが訪れるようになった。2010年に「恋人の聖地」に認定された。